

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

[システムの概要](#)


[Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方](#)


[セットアップユーティリティの使い方](#)

[仕様](#)

[コンソールリダイレクションの使い方](#)

[用語集](#)

 **メモ:** 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。

 **注意:** ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。

 **警告:** 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。
© 2003 全ての著作権はDell Inc.にあります。

Dell Inc. からの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標: Dell, DELLのロゴ、PowerEdge、およびDell OpenManage はDell Inc.の商標です。IntelはIntel Corporationの登録商標です。XeonおよびIntel386はIntel Corporationの商標です。NovellおよびNetWareはNovell, Inc.の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、およびMS-DOSはMicrosoft Corporationの登録商標です。

このマニュアルでは、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切Dell Computer Corporationに所属するものではありません。

Model SMM01

初版: 2003年9月

[メモ、注意および警告](#)

仕様

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

- [マイクロプロセッサ](#)
- [拡張バス](#)
- [メモリ](#)
- [ドライブ](#)
- [フロントポートおよびコネクタ](#)
- [ビデオ](#)
- [電源](#)
- [サイズと重量](#)
- [環境](#)
- [仕様](#)

仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	速度が1.8 GHz以上のIntel® Xeon™ マイクロプロセッサを最大2台
フロントサイドバス速度	400 MHz以上
内部キャッシュ	512 KB レベル2 キャッシュ

拡張バス	
バスのタイプ	PCIおよびPCI-X
拡張スロット	32ビット/33 MHz PCIスロット(5 V)が2つ、64ビット/66 MHz PCIスロット(3.3 V)が2つ、64ビット/100 MHz PCI-Xスロット(3.3 V)が2つ。

メモリ	
アーキテクチャ	72ビットECCレジスタDDR 266 SDRAM
メモリモジュールソケット	4
メモリモジュール容量	128 MB、256 MB、512MB、または1 GB
最小メモリ容量	128 MB
最大メモリ容量	4 GB

ドライブ	
ディスケットドライブ	3.5インチ、1.44 MBディスケットドライブ
ハードドライブ	1インチホットプラグUltra3 SCSIドライブが最大6台、1インチ非ホットプラグUltra3 SCSIドライブが最大4台、また1インチ非ホットプラグIDEドライブが最大4台
CDドライブ	EIDE CDドライブが1台
オプションのDVDまたはコンビネーションドライブ	オプションのIDE DVDまたはコンビネーションドライブ
テープドライブ	オプションの内蔵SCSIまたはIDEテープバックアップ装置

フロントポートおよびコネクタ	
シリアル	9ピンコネクタが1つ
パラレル	25ピンコネクタ
ビデオ	15ピンコネクタ
PS/2型キーボード(USB対応)	6ピンミニDINコネクタ
PS/2互換マウス	6ピンミニDINコネクタ

USB	USB準拠4ピンコネクタが2つ
NIC	内蔵NIC用のRJ45コネクタ

ビデオ	
ビデオのタイプ	ATI Rage XLビデオコントローラ、VGAコネクタ
ビデオメモリ	8 MB

電源	
DC電源装置 (1台当たり) :	
ワット数	450 W
電圧	100~240 VAC、50~63 Hz
熱散逸	最大2275 BTU/時
出力ホールドアップ時間	最小20 ms
最大流入電流	通常のラインコンディションのもと、システムの操作可能範囲を越えて、入電量が10 ms以下で55 Aに、または150 ms以下で25 A達することがあります。
システムバッテリー	CR2032 3.0 Vリチウムコイン型電池

サイズと重量	
高さ	44.7 cm
幅	21.8 cm
奥行き	57.41 cm
重さ	30.4 kg (最大構成)

環境	
温度:	
動作時	10° ~ 35°C
保管時	-40° ~ 65°C
相対湿度:	
動作時	20% ~ 80%(結露しないこと)
保管時	5% ~ 95%(結露しないこと)
最大振動:	
動作時	15分間に3~200 Hzで0.25 G(半正弦波)
保管時	15分間に3~200 Hzで0.5 G
最大衝撃:	
動作時	x、y、z軸の正および負方向に6個の連続衝撃パルス(システムの側面ごとに1パルス)、2.6 msに36 G
保管時	x、y、z軸の正および負方向に6連続衝撃パルス(システムの側面ごとに1パルス)、2 ms以下で71 G
高度:	
動作時	-16 ~ 3,048 m
保管時	-16 ~ 10,668 m
メモ: この表で使用された略語の正式名称は、「用語集」を参照してください。	

[メモ、注意および警告](#)

コンソールリダイレクションの使い方

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

- [ハードウェア要件](#)
- [ソフトウェア要件](#)
- [ホストシステムの設定](#)
- [クライアントシステムの設定](#)
- [ホストシステムのリモート管理](#)
- [特殊キーファンクションの設定](#)

コンソールリダイレクションを使用すると、シリアルポートを介してキーボード入力とテキスト出力をリダイレクトすることによって、クライアント(リモート)システムからホスト(ローカル)システムを管理することができます。グラフィック出力はリダイレクトできません。BIOSまたはRAID設定などの作業に、コンソールリダイレクションを使用することができます。

共有モデムを使って多くのホストシステムにアクセスすることが可能なポート集線装置に、クライアントシステムを接続することもできます。ポート集線装置にログインすると、コンソールリダイレクションを使ってホストシステムを管理するように設定することができます。

この章では、最も基本的な接続について説明します。ヌルモデムシリアルケーブルを使ったシステムの接続です。2つのシステム上のシリアルポートを直接接続します。

ハードウェア要件

- 1 ホストシステム(COM1)上で利用可能なシリアル(COM)ポートを1つ
- 1 クライアントシステム上で利用可能なシリアル(COM)ポートを1つ

このポートは、クライアントシステム上の他のポートとコンフリクトしてはいけません。

- 1 ホストシステムをクライアントシステムに接続するヌルモデムシリアルケーブルを1本

ソフトウェア要件

- 1 ウィンドウサイズが80 × 25文字のVT 100/220またはANSIターミナルエミュレーション
- 1 シリアル(COM)ポートを使用する9600、19.2 K、57.6 K、または115.2 K bps
- 1 キーボードコマンドマクロを作成可能(推奨)


すべてのMicrosoft® Windows®オペレーティングシステムには、HilgraeveのHyperTerminalターミナルエミュレーションソフトウェアが付属しています。ただし、付属バージョンにはコンソールリダイレクション中に必要な多くの機能が含まれていません。HyperTerminal PrivateEdition6.1以降にアップグレードするか、新しいターミナルエミュレーションソフトウェアを選んでください。

ホストシステムの設定

セットアップユーティリティを使って、ホスト(ローカル)システム上のコンソールリダイレクションを設定します(「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照)。
Console Redirection画面を使って、コンソールリダイレクション機能を有効または無効にしたり、リモートターミナルの種類を選んだり、起動後にコンソールリダイレクションを有効または無効にすることができます。

クライアントシステムの設定

ホストシステムを設定した後、クライアント(リモート)システムのポートおよびターミナル設定をおこないます。

 **メモ:** この項の例は、HilgraeveのHyperTerminal Private Edition 6.1以降にアップグレードしたことを前提にしています。他のターミナルエミュレーションソフトウェアをお使いの場合、そのソフトウェアのマニュアルを参照してください。

シリアルポートの設定

1. **スタート**ボタンをクリックし、**プログラム** → **アクセサリ** → **通信**とポイントして、**HyperTerminal**をクリックします。
2. 新しい接続用の名前を入力し、アイコンを選び、**OK**をクリックします。
3. **Connect to**(接続先)ドロップダウンメニューから使用可能なCOMポートを選び、**OK**をクリックします。

使用可能なCOMポートを選ぶと、COMポートのプロパティウィンドウが表示されます。

4. ポートは次のように設定します。
 1. **Bits per second**(1秒あたりのビット数)に設定します。

R\[_CNVA9600A19.2 KA57.6 KA<115.2 K bps...><'B
 1. **Data bits**(データビット)を**8**に設定します。
 1. **Parity**(パリティ)を**None**(なし)に設定します。
 1. **Stop bits**(ストップビット)を**1**に設定します。
 1. **Flow control**(フロー制御)を**Hardware**(ハードウェア)に設定します。
5. **OK**をクリックします。

ターミナルの設定

1. HyperTerminalで**File**(ファイル)をクリックし、**Properties**(プロパティ)をクリックして、**Settings**(設定)タブをクリックします。
2. **Function, arrow, and Ctrl keys act as**(ファンクションキー、矢印キー、Ctrl キーの動作)フィールドが、**Terminal Keys**(ターミナルキー)に設定されていることを確認します。
3. **Backspace key sends**(バックスペースキーの送信)フィールドが、**Ctrl+HI**に設定されていることを確認します。
4. **Emulation**(エミュレーション)設定を、**Auto detect**(自動検出)から**ANSI** または **VT 100/220**に変更します。

この設定が、ホストシステムの**Console Redirection**(コンソールリダイレクション)オプション用に選んだ設定と同じであることを確認します。

5. **Terminal Setup**(ターミナルセットアップ)をクリックします。

行数および列数を設定する画面が表示されます。

6. 行数を24から25へ変更します。列数は80のままにしておきます。

これらの設定がない場合、ターミナルエミュレーションソフトウェアをアップグレードする必要があります。

7. **OK**を2回クリックします。

ホストシステムのリモート管理


ホストシステムとクライアントシステムを設定すると(「[ホストシステムの設定](#)」および「[クライアントシステムの設定](#)」を参照)、コンソールリダイレクションを使ってホストシステムを再起動したり、ホストシステムの設定を変更することができます。

1. クライアントシステムを使ってホストシステムを再起動します。

手順については、「[特殊キーファンクションの設定](#)」を参照してください。

2. システムが起動を開始したら、コンソールリダイレクションを使って次の作業を実行することができます。

1. セットアップユーティリティの起動
1. SCSIセットアップメニューの起動
1. ファームウェアとBIOSの更新(システムのフラッシュ)
1. ユーティリティパーティションのユーティリティの実行


 **メモ:** ホストシステムのユーティリティパーティション上のユーティリティを実行するには、Dell OpenManage™ Server Assistantのバージョン6.3.1以降を使ってユーティリティパーティションを作成している必要があります。

特殊キーファンクションの設定

コンソールリダイレクションはANSIまたはVT 100/220ターミナルエミュレーションを使用します。これらは基本的なASCII文字に限られます。ファンクションキー、矢印キー、およびコントロールキーは、ASCII文字のセットでは使用できません。そして、ほとんどのユーティリティの通常の操作では、ファンクションキー、およびコントロールキーを必要とします。ただし、エスケープシーケンスと呼ばれる特殊なキーシーケンスを使用する、ファンクションキーまたはコントロールキーをエミュレートすることができます。

エスケープシーケンスは、エスケープ文字といっしょに起動します。このキャラクタは、お使いのターミナルエミュレーションソフトウェアの要件に応じて、様々な方法で入力できます。たとえば、0x1b、および <Esc>どちらもエスケープ文字を示します。HyperTerminalでは、View(表示)メニューからKey Macros(キーマクロ)を選んでマクロを作成できます。ほとんどすべてのキーの組み合わせに対するほとんどのキーに、マクロを割り当てることができます。各ファンクションキーを示すマクロを作成します。

[表 B-1](#)に、特殊キーまたはファンクションを示すエスケープシーケンスを一覧表示します。

 **メモ:** HyperTerminalでマクロを作成する際、ダイアログボックスを終了するのではなく、エスケープシーケンスを送信していることを知らせるために、<Esc>を押す前に<Insert>を押します。この機能がない場合、HyperTerminalをアップグレードする必要があります。


 **メモ:** [表 B-1](#)に一覧表示したエスケープシーケンスキーの組み合わせは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、<A>を生成するには、<Shift><a>を押す必要があります。

表 B-1. 対応エスケープシーケンス

キー	対応シーケンス	ターミナルエミュレーション
<上矢印>	<Esc><[><A>	VT 100/220, ANSI
<下矢印>	<Esc><[>	VT 100/220, ANSI
<右矢印>	<Esc><[><C>	VT 100/220, ANSI
<左矢印>	<Esc><[><D>	VT 100/220, ANSI
<F1>	<Esc><O><P>	VT 100/220, ANSI
<F2>	<Esc><O><Q>	VT 100/220, ANSI
<F3>	<Esc><O><R>	VT 100/220, ANSI
<F4>	<Esc><O><S>	VT 100/220, ANSI
<F5>	<Esc><O><T>	VT 100, ANSI
<F6>	<Esc><O><U>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><7><->	VT 100/220
<F7>	<Esc><O><V>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><8><->	VT 100/220

<F8>	<Esc><O><W>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><9><->	VT 100/220
<F9>	<Esc><O><X>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><0><->	VT 100/220
<F10>	<Esc><O><Y>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><1><->	VT 100/220
<F11>	<Esc><O><Z>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><3><->	VT 100/220
<F12>	<Esc><O><A>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><4><->	VT 100/220
<Home>	<Esc><[><1><->	VT 220
<End>	<Esc><[><4><->	VT 220
<Insert>	<Esc><[><2><->	VT 220
<Delete>	<Esc><[><3><->	VT 220
<Page Up>	<Esc><[><5><->	VT 220
<Page Down>	<Esc><[><6><->	VT 220
<Shift><Tab>	<Esc><[><Z>	VT 100
	<Esc><[><0><Z>	VT 220

表 B-1]に一覧表示したキーのマクロを作成した後、ターミナルエミュレーション中にクライアントシステムのキーボードの<F1>を押して、エスケープシーケンス <Esc><O><P>をホストシステムに送信します。この操作後、ホストシステムはシーケンスを<F1>として解釈します。

ホストシステムの特定のユーティリティまたは機能において、追加のエスケープシーケンスが必要な場合があります。表 B-2]に一覧表示されている、追加のシーケンス用のマクロを作成してください。


 **メモ:** 表 B-2]に一覧表示したエスケープシーケンスのキーの組み合わせは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、<A>を生成するには、<Shift><a>を押す必要があります。

表 B-2. 追加のエスケープシーケンス

キー	対応シーケンス
<Ctrl><Alt> (ホストシステムの再起動)	<Esc><R><Esc><r><Esc><R>
<Alt><x>	<Esc><X><X>
<Ctrl><H>	<Esc><Ctrl><H>
<Ctrl><l>	<Esc><Ctrl><l>
<Ctrl><J>	<Esc><Ctrl><J>
<Ctrl><M>	<Esc><Ctrl><M>
<Ctrl><2>	<Esc><Ctrl><2>

[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

[メモ、注意および警告](#)

システムの概要

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

- [前面ベゼルの機能およびインジケータ](#)
- [正面パネルの機能](#)
- [背面パネルの機能](#)
- [システムの機能](#)
- [サポートされているオペレーティングシステム](#)
- [電源保護装置](#)
- [その他のマニュアル](#)
- [テクニカルサポートを受けるには](#)

お使いのシステムは、規模の大小にかかわらず（小企業や遠隔地の環境を含む）、信頼性の高いプラットフォームを提供します。この章では、主要なハードウェアとソフトウェアの機能（正面および背面パネルインジケータ）、外付けデバイスの接続方法、および電源保護装置の使い方について説明します。また、システムを取り付けたり操作するために必要なその他のマニュアルを一覧表示するとともに、テクニカルサポートの受け方についても説明します。

前面ベゼルの機能およびインジケータ

[図 1-1](#)に、システムの前面ベゼル、およびその機能とインジケータを示します。
[図 1-2](#)には、前面ベゼルを開いて正面パネルにアクセスする方法を示します。

図 1-1. 前面ベゼルの機能およびインジケータ

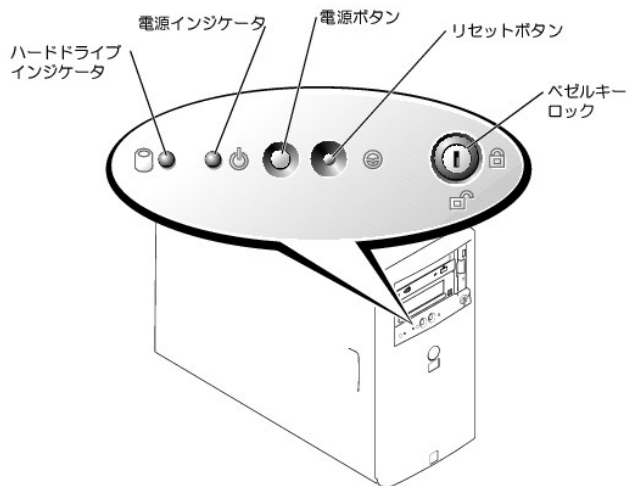
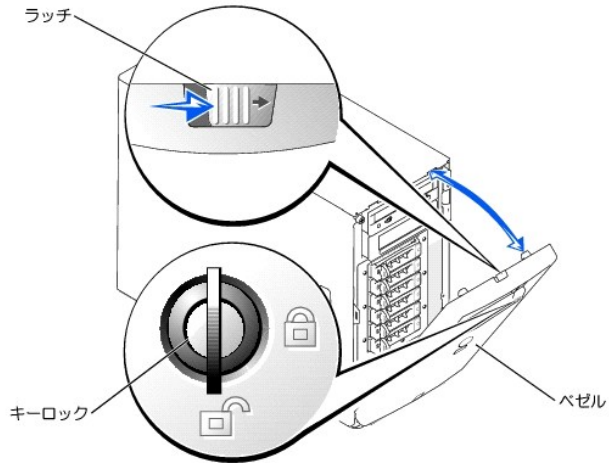


図 1-2. 前面ベゼルの開き方



正面パネルの機能

図 1-3 に、非ホットプラグ SCSI または IDE ハードドライブを搭載したシステムの正面パネルの機能を示します。図 1-4 には、ホットプラグ SCSI ハードドライブを搭載したシステムの正面パネルの機能を示します。

図 1-3. 非ホットプラグハードドライブを搭載したシステム

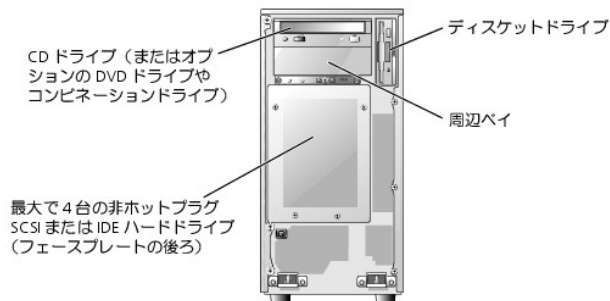
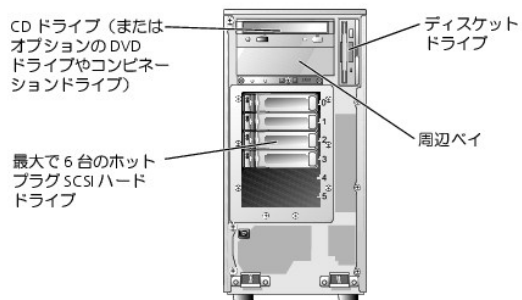


図 1-4. ホットプラグ SCSI ハードドライブを搭載したシステム

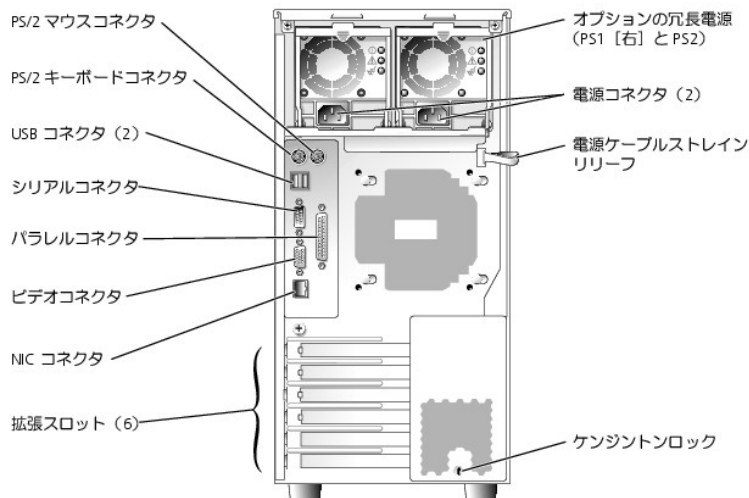


背面パネルの機能

図 1-5に、システムの背面パネルの機能を示します。

☑ **メモ:** 図 1-5は、オプションの冗長AC電源が取り付けられたシステムを示します。

図 1-5. 背面パネルの機能



外付けデバイスの接続

システムに外付けデバイスを接続する場合、次のガイドラインに従ってください。

- ほとんどのデバイスは特定のコネクタに接続する必要があります。また、デバイスドライバをインストールしないとデバイスは正常に動作しません。(デバイスドライバは、通常オペレーティングシステムソフトウェアまたはデバイス本体に付属しています。) デバイスに固有の取り付け手順および設定手順がないか、デバイスに付属のマニュアルを確認します。
- 外付けデバイスは、システムがオフのときにのみ取り付けます。システムの電源を入れる前に外付けデバイスの電源を入れます(デバイスのマニュアルに特別の指示がない限り)。システムがデバイスを認識しない場合、デバイスの電源を入れる前にシステムの電源を入れてみます。

個々のコネクタについては、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「I/Oポートおよびコネクタ」を参照してください。I/Oポートやコネクタを有効または無効にする方法、および設定方法については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

システムの機能

お使いのシステムには、次の機能が搭載されています。

- Intel® Xeon™マイクロプロセッサ(速度1.8 GHz以上、フロントサイドバス速度400 MHz以上、512 KBLレベル2キャッシュ)が最大2つ

☑ **メモ:** マイクロプロセッサの情報を表示するには、セットアップユーティリティを使用してください。詳細については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

- 最小容量128 MBのECC DDR 266 SDRAM メモリ。システム基板上の4つのメモリモジュールソケットに128 MB、256 MB、512 MB、または1 GBのレジスタメモリモジュールを取り付けることによって、4 GBまで増設可能
- 以下の内蔵ハードドライブ構成をサポートします。
 - 1インチUltra3 SCSIホットプラグハードドライブが最大6台

- 1インチ非ホットプラグSCSIまたはIDEハードドライブが最大4台
- 1 SCSIハードドライブ用の内蔵SCSIコントローラ、およびIDEハードドライブ、CDドライブ、オプションのDVDドライブとコンビネーションドライブ用の内蔵IDEコントローラ
- 1 SCSI RAID用のオプションの単一チャンネルRAIDコントローラ、またはIDE RAID用のオプションのクワッドチャンネルRAIDコントローラ
- 1 以下のオプションのドライブをサポートする5.25インチ周辺機器ドライブベイが2つ。CD、DVD、コンビネーションCD/DVD、またはテープバックアップユニット (SCSIまたはIDE)

システム基板には、次の機能が内蔵されています。

- 1 PCI拡張スロットが6つ。32ビット/33 MHz PCIスロットが2つ、64ビット/66 MHz PCIスロットが2つ、64ビット/100 MHz PCI-Xスロットが2つ
- 1 ATI RAGE XLビデオコントローラ搭載の内蔵VGA互換ビデオサブシステム。このビデオサブシステムには、8 MBのSDRAMビデオメモリが組み込まれています (アップグレード不可)。最大解像度は、1280 × 1024ピクセルおよび1670万色です (非インタレース)。
- 1 10 Mbps、100 Mbps、および1000 Mbpsのデータ転送速度をサポートできる内蔵Gigabit Ethernet NIC
- 1 重大なシステムの電圧および温度を監視するシステム管理回路。システム管理回路は、システム管理ソフトウェアと連動します。
- 1 リモートシステム管理用のオプションのリモートアクセスカード
- 1 オプションのホットプラグ冗長電源装置
- 1 シャーシイントルージョンアラーム、内部セキュリティ用のパッドロックタブ、およびホットプラグハードドライブへのアクセスを防止するベゼルロック

標準のシステムには、フロントベイにディスクドライブおよびIDE CDドライブが組み込まれています。オプションのDVDまたはコンビネーションドライブも使用できます。

お使いのシステムには、次のソフトウェアが付属しています。

- 1 システム設定情報をすばやく表示したり変更できる、セットアップユーティリティ。このプログラムの詳細は、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。
- 1 セットアップユーティリティから利用可能なシステムパスワードおよびセットアップパスワードを含む、強化されたセキュリティ機能。
- 1 システムのコンポーネントおよびデバイスを評価するための診断プログラム。システム診断プログラムの使用方法についての情報は、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「システム診断プログラムの実行」を参照してください。
- 1 オプションのテープバックアップソフトウェア

システムの機能の詳細について説明しているマニュアルの一覧は、「[その他のマニュアル](#)」を参照してください。

サポートされているオペレーティングシステム

お使いのシステムは、次のオペレーティングシステムをサポートします。


- 1 Microsoft® Windows® Server 2003 Standard Edition
- 1 Microsoft Windows 2000 Server
- 1 Microsoft Windows 2000 SBS
- 1 Red Hat® Linux 7.3以降
- 1 Novell® NetWare® バージョン6.0以降

電源保護装置


電圧変動、停電などの影響からシステムを保護するためのデバイスがあります。

- 1 PDU — AC電流量がPDUの値を超えないようにするために回路ブレーカを使用します。
- 1 サージプロテクタ — 雷雨中等などに発生する可能性のある電圧スパイクが電源コンセントやネットワークポートを介してシステムに侵入するのを防ぎます。サージプロテクタは、電圧が通常のACライン電圧レベルより20%以上低下した時に起こる電圧低下から保護できません。
- 1 ラインコンディショナー — システムのAC電源電圧をほぼ一定に保ち、短時間の電圧低下から保護しますが、完全な停電からは保護できません。
- 1 UPS — AC電源が使用できないときに、バッテリーから電源を供給してシステムを動作し続けます。バッテリーはAC電力が利用可能な間に充電されます。AC電力が供給されなくなると、15分から約1時間の限られた時間、バッテリーからシステムに電力が供給されます。バッテリーで5分間しか電力を供給できないUPSでは、システムのシャットダウンしかできません。UPSは、すべてサージプロテクタおよびPDUといっしょに使用してください。UPSは、ULの安全基準に合格していることを確認してください。

その他のマニュアル

 『システム情報ガイド』では、安全および認可機関に関する情報について説明しています。保証に関する情報は、『サービス&サポートのご案内』を参照してください。

- 1 『システムのセットアップ』マニュアルでは、システムを最初にセットアップするための概要を説明しています。
- 1 『インストール&トラブルシューティングガイド』では、システムのトラブルシューティング方法、およびシステムコンポーネントの取り付けや交換方法について説明しています。
- 1 システム管理ソフトウェアのマニュアルでは、ソフトウェアの機能、必要条件、インストール、および基本操作について説明しています。
- 1 オペレーティングシステムのマニュアルでは、オペレーティングシステムソフトウェアのインストール方法(必要な場合)、設定方法、使い方について説明しています。
- 1 システムに付属のCDに収録されているその他のマニュアルでは、システムのアドバンス機能の使い方について説明しています。
- 1 システムとは別に購入したコンポーネントのマニュアルでは、これらのオプションを設定したり取り付けるための情報について説明しています。
- 1 システム、ソフトウェア、マニュアルの変更について説明したアップデートがシステムに同梱されていることがあります。

 **メモ:** マニュアルの情報を変更した内容が含まれているので、必ずアップデートを最初にお読みください。

- 1 リリースノートまたはreadmeファイルには、マニュアルの印刷後にシステムに追加された変更や、技術者および専門知識をお持ちのユーザーを対象とする、テクニカルリファレンスが記載されている場合があります。

テクニカルサポートを受けるには

このガイドの手順が理解できない場合、またはシステムが思った通りに動作しない場合、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

Dell Enterprise Training and Certificationが現在ご利用いただけます。詳細については、www.dell.com/trainingを参照してください。このサービスはすべての地域で提供されているわけではありません。

[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

- [オプション](#)
- [説明](#)
- [Server Assistant CDの起動](#)
- [サーバセットアッププログラムの使い方](#)
- [ドライバとユーティリティのアップデート](#)
- [ユーティリティパーティションの使い方](#)

『Dell OpenManage Server Assistant CD』には、お使いのシステムを設定するために役立つユーティリティ、診断プログラム、ドライバが収録されています。オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、このCDを使ってオペレーティングシステムのインストールを開始してください。システムのハードドライブ上の起動ユーティリティパーティションには、『Server Assistant CD』と同じ機能がいくつか含まれています。

Server Assistant CDの起動

システムを設定してオペレーティングシステムをインストールするには、『Server Assistant CD』を挿入して、システムの電源を入れるか再起動します。Dell OpenManage Server Assistantメイン画面が表示されます。


『Server Assistant CD』では、標準のウェブブラウザインターフェースを使用します。各種アイコンやテキストのリンクをマウスでクリックして、CDを操作することができます。

Server Assistantを終了するには、Exit(終了)アイコンをクリックします。サーバセットアッププログラム中にServer Assistantを終了すると、システムは標準のオペレーティングシステム起動パーティションに再起動します。

CDが起動しない場合、セットアップユーティリティのBoot Sequenceオプションで、CDドライブが最初に起動するよう指定されているか確認します(「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照)。


サーバセットアッププログラムの使い方

オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、または後日オペレーティングシステムをインストールする場合、『Server Assistant CD』のサーバセットアッププログラムを使って、システムを設定したりオペレーティングシステムをインストールします。

 **メモ:** オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合にのみ、『Server Assistant CD』を使用してください。オペレーティングシステムの『インストール手順』マニュアルを探し、手順に従ってインストールを完了してください。

サーバセットアッププログラムを使って次のようなタスクが実行できます。

- 1 システムの日付と時間の設定
- 1 RAIDコントローラの設定(適用できる場合)
- 1 オペレーティングシステムの選択およびインストール、オペレーティングシステムに固有の情報の特定
- 1 ハードドライブの構成
- 1 インストール要約の表示

 **メモ:** オペレーティングシステムをインストールするには、オペレーティングシステムのメディアが必要です。

サーバセットアッププログラムを起動するには、DellOpenManageServer Assistantメイン画面で、Server Setup(サーバのセットアップ)をクリックします。画面の指示に従ってください。

ドライバとユーティリティのアップデート

Microsoft® Internet Explorer 4.0以降、またはNetscape Navigator 6.0以降がインストールされているシステムでは、ドライバとユーティリティをアップデートすることができます。Microsoft Windows®オペレーティングシステムを使用しているシステムにCDを挿入すると、ブラウザが自動的に起動し、Dell OpenManage Server Assistantメイン画面が表示されます。

ドライバとユーティリティをアップデートするには、次の手順を実行します。

1. Dell OpenManage Server Assistantメイン画面から、ドライバとユーティリティのアップデート用のオプションを選びます。
2. ドロップダウンメニューからシステムのモデル番号を選びます。
3. アップデートするドライバまたはユーティリティのタイプを選びます。
4. Continue(継続)をクリックします。
5. アップデートする各ドライバまたはユーティリティを選びます。

プログラムを実行するか、ファイルを保存する場所を用意するよう指示されます。


6. プログラムを実行するか、ファイルを保存する場所を指定します。

ユーティリティパーティションの使い方

ユーティリティパーティションはハードドライブ上の起動パーティションであり、システム設定や診断ユーティリティを含んでいます。ユーティリティパーティションを起動すると、パーティションのユーティリティ用の実行環境が提供されます。

ユーティリティパーティションを起動するには、システムの電源を入れるか、再起動します。POST中に、次の画面が表示されたら、<F10>を押します。

<F10> = Utility Mode

 **メモ:** ユーティリティパーティションで用意されているMS-DOS®機能は限られており、汎用のMS-DOSパーティションとして使用することはできません。

ユーティリティパーティションでは、テキストベースのインタフェースによってパーティションのユーティリティを実行します。メニューオプションを選択するには、矢印キーを使ってオプションをハイライト表示してから<Enter>を押すか、またはメニューオプション番号を入力します。ユーティリティパーティションを終了するには、Utility Partitionメインメニューから<Esc>を押します。

表 2-1に、ユーティリティパーティションメニュー上に表示されるオプションのサンプル一覧とその説明を示します。これらのオプションは、『Server Assistant CD』がCDドライブにない場合でも使用できます。

表 2-1. ユーティリティパーティションのメインメニューオプション

オプション	説明
Run system diagnostics	システムハードウェアの診断プログラムを実行します。
Run RAID configuration utility	ROMBまたはRAID コントローラカードが取り付けられている場合、RAID設定ユーティリティを実行します。
メモ: 表示されるオプションはシステム設定によって変わります。また、この一覧に表示されない場合もあります。この表で使用された略語の正式名称は、『用語集』を参照してください。	

[X子、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

セットアップユーティリティの使い方

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップオプション](#)
- [システムパスワード機能の使い方](#)
- [セットアップパスワード機能の使い方](#)
- [パスワードを忘れたとき](#)
- [管理タグ設定ユーティリティ](#)

セットアップユーティリティを使うと、システムおよびハードウェアデバイス設定を表示または設定することができます。

セットアップユーティリティは、次のような場合に使用できます。

1. ハードウェアを追加、変更、または削除した後に、NVRAMに保存されたシステム設定を変更する場合
1. ユーザーが選択可能なオプションを変更する場合（たとえば、システムの日時）
1. 内蔵デバイスを有効または無効にする場合

システムのインストールが終了したら、システム設定およびオプション設定を理解するために、セットアップユーティリティを実行します。参照用にセットアップユーティリティ画面を印刷するか（<Print Screen>を押す）、その情報を記録します。

セットアップユーティリティの起動


セットアップユーティリティを次のように起動します。

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたら、素早く<F2>を押します。


Press <F2> for System Setup（セットアップユーティリティ用に<F2>を押します）

<F10>を押してユーティリティモードを起動したり、PXE起動のために<F12>を押すこともできます。PXE起動は、強制的にシステムをネットワークから起動します。

ボタンを押すのが遅かった場合、いったんシステムを起動してから再起動します。

 **メモ:** システムのシャットダウンを正しくおこなうために、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

特定のエラーメッセージに対応することによっても、セットアップユーティリティを起動できます。「[エラーメッセージへの対応](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップユーティリティの使い方のヘルプを見るには、<F1>を押します。

エラーメッセージへの対応

システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合、メッセージをメモしてください。次に、セットアップユーティリティを起動する前に、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「システムビープコード」および「システムメッセージ」を参照して、メッセージの意味やエラー修正の方法を調べてください。(メモリアップグレードを取り付けた後で初めてシステムを起動すると、通常エラーメッセージが表示されます。この状況では、「システムビープコード」および「システムメッセージ」は参照しないでください。代わりに、『インストール&トラブルシューティングガイド』にある「メモリアップグレードの実行」のメモリアップグレードの実行手順に従ってください。)

<F1>を押して続行するか、または<F2>を押してセットアップユーティリティを実行するかのどちらかを選択できる場合、<F2>を押します。

セットアップユーティリティの使い方

表 3-1 に、セットアップユーティリティの情報を表示および変更したり、プログラムを終了するときを使うキーの一覧を示します。

キー	処置
下矢印または<Tab>	次のフィールドへ移動します。
上矢印または<Tab><Shift>	前のフィールドへ移動します。
左右矢印キー	フィールドの設定を順に切り替えます。多くのフィールドでは適切な値を直接入力することもできます。
<Esc>	変更をおこなった場合、セットアップユーティリティを終了してシステムを再起動します。

ほとんどのオプションでは、変更内容が自動的に記録されますが、それが実際に有効になるのはシステムの再起動後からです。変更した直後に有効になるオプションもあります(ヘルプエリアを参照)。

セットアップオプション

次項では、セットアップユーティリティ画面上の各オプションの概要について説明します。

メイン画面

セットアップユーティリティを起動すると、メインプログラム画面が表示されます(図 3-1 参照)。ユーザーが選択できる設定がないフィールドは、画面上で青く表示されます。


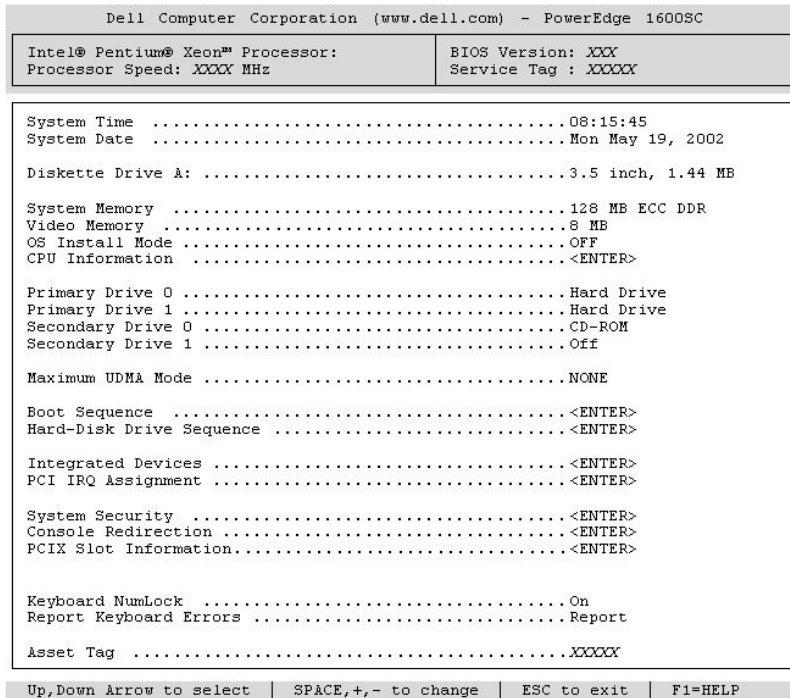
 **メモ:** オプションのハードウェアがシステムに取り付けられている場合、セットアップユーティリティ画面は 図 3-1 とは異なります。

図 3-1. メインセットアップユーティリティ画面



次のオプションおよび情報フィールドが、メインのメインセットアップユーティリティ画面に表示されます。

- 1 **System Time** — システムの内部時計の時刻をリセットします。
- 1 **System Date** — システムの内蔵カレンダーの日付をリセットします。
- 1 **Diskette Drive A:** — システムに取り付けられているディスクドライブの種類を識別します。
- 1 **System Memory** — システムメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 **Video Memory** — ビデオメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 **OS Install Mode** — オペレーティングシステムに利用できるメモリの最大容量を決定します。オペレーティングシステムの中には、2 GB以上のシステムメモリではインストールできないものもあります。Onに設定すると、利用可能な最大メモリは256 MBです。Off(デフォルト)に設定すると、すべてのシステムメモリをオペレーティングシステムに利用できます。このオプションは、オペレーティングシステムをインストール中はOnにし、インストールが終了したらOffにします。
- 1 **CPU Information** — システムのバスおよびマイクロプロセッサに関連した情報が表示されます。Logical Processorオプションを使って、Hyper-Threadingテクノロジーを有効または無効にします。

セットアップユーティリティのメイン画面のCPU Informationオプションには、システムのさまざまなプロセッサについての情報が表示されます。マイクロプロセッサ情報を表示した後、Logical Processorオプションの設定を変更することによって、Hyper-Threadingを有効または無効にすることができます。(デフォルトは有効です。)

Hyper-Threadingに関する情報は、developer.intel.comにあります。

- 1 **Primary Drive 0** — ドライブ0としてプライマリIDEチャンネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。<Enter>を押して、ドライブ容量、シリンダ、ヘッド、セクタについての情報を表示したり、ドライブの種類を変更できます。
- 1 **Primary Drive 1** — ドライブ1としてプライマリIDEチャンネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。<Enter>を押して、ドライブ容量、シリンダ、ヘッド、セクタについての情報を表示したり、ドライブの種類を変更できます。
- 1 **Secondary Drive 0** — ドライブ0としてセカンドIDEチャンネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。<Enter>を押して、デバイスについての情報を表示します。
- 1 **Secondary Drive 1** — ドライブ1としてセカンドIDEチャンネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。<Enter>を押して、デバイスについての情報を表示します。
- 1 **Maximum UDMA Mode** — オプションのIDEハードドライブが動作する速度を決定します。設定を高くすると性能が向上する場合があります。ただし、適用できるサービスパックアップデートまたはパッチがない場合、より速い速度をサポートできないオペレーティングシステムがあります。

- 1 **Boot Sequence** — **Boot Sequence**画面を表示します。システム起動中に必要なファイルを検索する順番を設定することができます。使用可能なオプションには、デイスケットドライブ(デフォルト)、CDドライブ(またはオプションのDVDドライブあるいはコンピネーションドライブ)、ハードドライブ、またはNIC(ネットワークからのPXE起動が可能)が含まれます。デバイスを選んでスペースバーを押し、そのデバイスの有効または無効にできます。デバイスを検索する順序を変更するには、<+>および<->キーを使用します。
- 1 **Hard-Disk Drive Sequence** — **Hard-Disk Drive Sequence**画面を表示します。システム起動中に必要なファイルをハードドライブで検索する順番を設定することができます。お使いのシステムに取り付けられているハードドライブによって、選択肢が異なります。デバイスを選んでスペースバーを押し、そのデバイスを有効または無効にできます。デバイスを検索する順序を変更するには、<+>および<->キーを使用します。
- 1 **Integrated Devices** — システム基板のデバイスを設定するための画面を表示します。「[Integrated Devices画面](#)」を参照してください。
- 1 **PCI IRQ Assignment** — PCIバスの内蔵デバイスのそれぞれに割り当てられているIRQ、またはIRQを必要とするすべての搭載済み拡張カードを変更できる画面を表示します。
- 1 **System Security** — システムパスワードおよびセットアップパスワード機能、シャーマシントリュージョン、および電源ボタンを設定することができる画面を表示します。「[システムパスワード機能の使い方](#)」および「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。
- 1 **Console Redirection** — コンソールリダイレクションを設定するための画面を表示します。サブメニューを使うと、機能をオンまたはオフにしたり、リモートターミナルの種類を選択したり、起動後のリダイレクションを有効または無効にすることができます。詳細については、「[コンソールリダイレクションの使い方](#)」を参照してください。
- 1 **PCI Slot Information** — システムのPCI-Xスロットについての情報を表示します。この情報は、最適なパフォーマンスを得るために、どのスロットにカードを追加すべきかを決定するために使用します。
- 1 **Keyboard Numlock** — 101または102キーのキーボード(このオプションは、84キーのキーボードには適用されません)で、Numlockモードが有効な状態でシステムが起動するかどうかを決定します。
- 1 **Report Keyboard Error** — POST中に検出されたキーボードエラーの報告機能を有効または無効にします。このオプションは、固定のキーボードを備えていないセルフ起動サーバやホストシステムに適用すると便利です。こうした条件では、**Do Not Report**を選ぶと、POST実行中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するエラーのすべてのメッセージが省略されます。キーボードが取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の操作に対する影響はありません。
- 1 **Asset Tag** — 管理タグ番号が割り当てられている場合、ユーザーがプログラム可能なシステムの管理タグ番号を表示します。10文字までの管理タグ番号をNVRAMIに割り当てるには、「[管理タグ設定ユーティリティ](#)」を参照してください。

Integrated Devices画面

この画面を使って、システム基板上の次のデバイスを設定できます。

- 1 **SCSI Controller** — SCSIサブシステムを有効または無効にします。デフォルトは、Onです。
- 1 **Diskette Controller** — システムのディスケットドライブコントローラを有効または無効にします。Auto(デフォルト)を選ぶと、拡張スロットに取り付けられているコントローラカードを使用する必要がある場合、システムはコントローラをオフにします。Read Onlyを選ぶと、ディスケットを読み取ることはできません。
- 1 **IDE Controller** — IDEコントローラを有効または無効にします。
- 1 **USB Controller** — USBコントローラのステータスをOn With BIOS Support(デフォルト)、On Without BIOS Support、またはOffに設定します。PS/2キーボードが接続されている場合、On Without BIOS SupportはBIOS USBサポートを無効にします。PS/2キーボードが接続されていない場合にOn Without BIOS Supportを選択すると、USBマウスおよびキーボードは起動中のみ機能します。On With BIOS Supportに設定すると、USBマウスおよびキーボードは、オペレーティングシステムのドライバがロードされるまでBIOSによって制御されます。
- 1 **Network Interface Controller** — PXEシステム起動オプションを有効にするかどうかを決定します。使用可能なオプションは、Enabled with PXE、およびEnabled without PXE(デフォルト)です。
- 1 **NIC MAC Address** — 内蔵NICが使用するMACアドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 **Serial Port 1** — システムの内蔵シリアルポートを設定します。これらのオプションは、自動的にポートを設定するAuto(デフォルト)、特定のCOM指定先、またはポートを無効にするOffに設定することができます。


シリアルポートをAutoに設定し、同じ指定機能に設定されているポートを搭載した拡張カードを追加した場合、システムは、内蔵ポートを次に利用可能な同じIRQ設定を共有しているポート指定に、自動的に再マップします。


- 1 **Parallel Port** — システムの内蔵パラレルポートを設定します。
- 1 **Speaker** — システムスピーカーを有効または無効にします。
- 1 **Parallel Port Mode** — システム内蔵のパラレルポートを、AT互換(一方方向)ポートとして使用するか、またはPS/2互換(双方方向)ポートとして使用するかを設定できます。使用するモードを決定するときは、ポートに接続された周辺機器に付属のマニュアルを参照してください。

System Security画面

System Security画面を使って、次のセキュリティ機能を設定できます。

- 1 **System Password** — システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいパスワードを設定したり検証することができます。


 **メモ:** システムパスワードの設定、および既存のシステムパスワードの使用または変更に関する手順については、「[システムパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れたシステムパスワードを無効にする詳しい方法については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。
- 1 **Setup Password** — システムパスワード機能を使ってシステムへのアクセスを制限するのと同じ要領で、セットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。

 **メモ:** セットアップパスワードの設定、および既存のセットアップパスワードの使用または変更に関する手順については、「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れたシステムパスワードを無効にする詳しい方法については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。
- 1 **Password Status** — Setup PasswordをEnabledに設定すると、システムパスワードをシステム起動時に変更または無効にできなくなります。

システムパスワードをロックするには、まずSetup Passwordオプションでセットアップパスワードを設定し、次にPassword StatusオプションをLockedに変更します。この状態では、System Passwordオプションを使ってシステムパスワードを変更したり、<Ctrl><Enter>を押してシステム起動時にパスワードを無効にすることはできません。

システムパスワードのロックを解除するには、まずSetup Passwordオプションでセットアップパスワードを入力して、Password StatusオプションをUnlocked(デフォルト)に変更しなければなりません。この状態では、<Ctrl><Enter>を押してシステム起動時にシステムパスワードを無効にしたり、System Passwordオプションを使ってシステムパスワードを変更することができます。

- 1 **Chassis Intrusion** — システムのシャーシイントルージョン検出機能を有効または無効にします。このオプションがEnabled-Silentに設定されている場合、シャーシイントルージョンは検出されますが、システム起動時に警告メッセージは報告されません。このオプションがEnabledに設定されている場合、シャーシカバーが取り外されると、Detectedがフィールドに自動的に表示されます。イントルージョンを確認し、将来のセキュリティ侵害に備えるには、いずれかのナビゲーションキーを押します。


 **メモ:** リモートアクセスカードがシステムに取り付けられている場合、シャーシイントルージョン機能はリモートアクセスカードによって制御されます。そのため、BIOSはシャーシイントルージョン機能またはイベントを検出しません。
- 1 **Power Button** — このオプションがEnabledに設定されている場合、電源ボタンを使用してシステムの電源を切る(またはACPI仕様に対応したMicrosoft® Windows® 2000などのオペレーティングシステムを使用している場合、システムをシャットダウンする)ことができます。このオプションがDisabledに設定されている場合、電源ボタンを使用してシステムの電源を切ることはできません。

Exit画面

<Esc>を押してセットアップユーティリティを終了すると、Exit画面が次の選択肢を表示します。

- 1 Save Changes and Exit (変更を保存して終了)
- 1 Discard Changes and Exit (変更を保存せずに終了)
- 1 Return to Setup (セットアップへ戻る)

システムパスワード機能の使い方

-  **注意:** パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。ただし、より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

お使いのシステムは、出荷時にシステムパスワード機能が有効になっていません。システムのセキュリティが必要な場合、必ずシステムパスワード保護機能を有効にして使用してください。

セットアップユーティリティを使用して、システムパスワードを設定できます。システムパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、システムの全機能を使用することはできません。

System PasswordオプションがEnabledに設定されている場合、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動直後に表示されます。

既存のシステムパスワードを変更するには、そのパスワードを事前知っておく必要があります(「[既存のシステムパスワードの取り消しと変更](#)」を参照)。設定したパスワードを忘れた場合、システムカバーを取り外し、ジャンパ設定を変更してシステムパスワード機能を無効にする必要があります。ジャンパ設定を変更すると、セットアップパスワードも消去されるので注意してください。忘れたシステムパスワードを無効にする詳しい方法については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

- **注意:** システムパスワードを設定せずに実行中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置した場合、第三者がジャンパの設定を変更して、パスワード機能を無効にすることができます。結果、誰でもハードドライブ内の情報にアクセスできるようになります。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、まずセットアップユーティリティを起動して、System Passwordオプションを確認する必要があります。

システムパスワードが設定されている場合、System Passwordオプションの設定はEnabledです。システム基板のジャンパ設定によってシステムパスワード機能が解除されている場合、設定はDisabled by Jumperです。これらの設定のいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

システムパスワードが設定されておらず、システム基板上のパスワードジャンパが有効な位置(デフォルト)に設定されている場合、System PasswordオプションはNot Enabledと表示されます。このオプションがNot Enabledに設定されている場合のみ、以下の手順でシステムパスワードを設定することができます。

1. Password StatusオプションがUnlockedに設定されていることを確認します。
2. System Passwordオプションをハイライト表示して、左右矢印キーを押します。
3. 新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードには7文字まで使用できます。

それぞれの文字キー(または空白としてのスペースバー)を押すごとに「*」が表示されます。

パスワードの設定操作では、キーボード上の位置でキーが認識され、大文字と小文字は区別されません。たとえば、パスワード設定時にMを入力しても、Mとmの両方が正しい文字として認識されます。無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、スピーカーからピープ音が鳴りません。入力した文字を訂正する場合、<Backspace>または左矢印キーを押します。

- **メモ:** システムパスワードの入力を途中で中止したい場合、<Tab>または <Shift> <Tab>を押して別のフィールドに移動するか、手順 5を終了する前に <Esc>を押します。

4. <Enter>を押します。

新しく設定したシステムパスワードが7文字未満の場合、残りの部分には「*」が挿入されます。オプション名がVerify Passwordに変わり、その後ろに7文字分の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、再度パスワードを入力して<Enter>を押します。

パスワード設定はEnabledに変わります。これで、システムパスワードが設定されました。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用することができます。ただし、電源を入れなおしてシステムを再起動しないと、パスワード保護機能は有効にならないので注意してください。

システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

電源を入れるか、または<Ctrl><Alt>を押してシステムを再起動した際に、Password StatusオプションがUnlockedに設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

Type in the password and... -- press <ENTER> to leave password security enabled. -- press <CTRL><ENTER> to disable password security. Enter password: (パスワードを入力し... -- <ENTER>を押してパスワードセキュリティを有効のままにします。-- <CTRL><ENTER>を押してパスワードセキュリティを無効にします。パスワードを入力してください。)

Password StatusオプションがLockedに設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

Type the password and press <Enter>. (パスワードを入力し、<ENTER>を押してください。)

正しいシステムパスワードを入力して<Enter>を押すと、システムが起動し、キーボードやマウスを使用して通常通りにシステムを操作できます。

 **メモ:** セットアップパスワードを設定している場合(「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照)、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
```

Enter password: (** 間違ったパスワード** パスワードを入力してください。)


2回も誤ったシステムパスワードまたは不完全なシステムパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。

システムパスワードを3回間違えると、それ以降は次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **  
Number of unsuccessful password attempts: 3  
System halted! Must power down. (** 間違ったパスワード** ** 間違ったパスワードの入力回数** 3、システムが停止し  
ます。)
```

適切なシステムパスワードを入力するために試みた不成功の回数によって、認証されていないユーザーがシステムにアクセスしようとしていることがわかります。

システムの電源を入れなおした後も、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力する度に、前述のメッセージが表示されます。

 **メモ:** Password Statusオプションの他にSystem PasswordとSetup Passwordオプションも併用すると、無許可の変更からシステムを保護することができます。

既存のシステムパスワードの取り消しと変更

1. <F2>を押して、セットアップユーティリティを起動します。
2. System Security画面フィールドを選んで、Password Statusオプションが Unlockedに設定されていることを確認します。
3. システムを再起動して、システムパスワード用のプロンプトを表示させます。
4. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
5. <Enter>を押して通常の操作を続ける代わりに、<Ctrl><Enter>を押して既存のシステムパスワードを無効にします。
6. セットアップユーティリティのSystem PasswordオプションにNot Enabled と表示されていることを確認します。

System PasswordオプションにNot Enabledと表示される場合、システムパスワードは取り消されています。新しいパスワードを設定する場合、手順7に進

みます。System PasswordオプションにNot Enabledと表示されない場合、<Alt>を押してシステムを再起動し、手順 4～6を繰り返します。

- 新しいパスワードを設定するには、「[システムパスワードの設定](#)」の手順に従います。

セットアップパスワード機能の使い方


ご使用のシステムは、出荷時にセットアップパスワード機能が有効になっていません。システムのセキュリティが必要な場合、必ずセットアップパスワード保護機能を有効にして使用してください。

セットアップユーティリティを使用して、セットアップパスワードを設定できます。セットアップパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、セットアップユーティリティの全機能を使用することはできません。

既存のセットアップパスワードを変更するには、そのパスワードを事前に知っておく必要があります（「[既存のシステムパスワードの取り消しと変更](#)」を参照）。設定したセットアップパスワードを忘れた場合、システムシャーンを開き、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にしてから、既存のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更できません。忘れたシステムパスワードを無効にする詳しい方法については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、Setup PasswordオプションがNot Enabledに設定されている場合にのみ、設定（または変更）できます。セットアップパスワードを設定するには、Setup Passwordオプションをハイライト表示して、左右矢印キーを押します。パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると警告のビープ音が鳴ります。

-  **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。それら2つのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することができません。

パスワードの確認が終わると、Setup Passwordの設定はEnabledに変わります。これ以降、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。


Setup Passwordオプションへの変更はただちに有効になります（再起動は必要ありません）。

セットアップパスワードが有効な場合の操作

Setup PasswordがEnabledに設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップオプションを変更できません。セットアップユーティリティを起動すると、プログラムプロンプトが表示され、パスワードを入力するよう求められます。

3回までの入力で正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティ画面は表示されますが、以下の例を除いて変更することはできません。

- 1 Date、Time、Keyboard Num Lock、およびSpeakerオプションは変更可能です。
- 1 System Passwordが有効でなく、Password Statusオプションを使ってロックされていない場合、システムパスワードを設定できます（ただし、既存のシステムパスワードを削除したり変更することはできません）。

-  **メモ:** Setup Passwordオプションと併しにPassword Statusオプションを使うと、無許可の変更からシステムパスワードを保護することができます。

既存のセットアップパスワードの取り消しと変更

既存のセットアップパスワードを取り消しまたは変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動して、System Securityオプションを選びます。
2. Setup Passwordオプションをハイライト表示し、左右矢印キーを押して、既存のセットアップパスワードを取り消します。

設定はNot Enabledに変わります。


3. 新しいセットアップパスワードを設定する場合、「[セットアップパスワードの設定](#)」の手順を実行します。

パスワードを忘れたとき

『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

管理タグ設定ユーティリティ

管理タグ設定ユーティリティを使って、一意のトラッキング番号をシステムに設定することができます。この番号は、セットアップユーティリティのメイン画面に表示されます。

 **メモ:** 管理タグ設定ユーティリティは、MS-DOS®ベースのアプリケーションをサポートするオペレーティングシステムでのみ機能します。

管理タグ設定ユーティリティディスクットの作成

1. 『Dell OpenManage Server Assistant CD』をMicrosoft Windowsオペレーティングシステムを実行しているシステムのCDドライブに挿入し、システムを再起動します。
2. 空のディスクットをディスクットドライブに挿入します。
3. Dell OpenManage Server Assistantメイン画面で、System Tools(システムツール)をクリックします。
4. Create CD Boot Diskette (CD起動ディスクットの作成)を選びます。

管理タグ番号の割り当てまたは削除

1. 作成した管理タグ設定ユーティリティディスクットをディスクットドライブに挿入し、システムを再起動します。
2. 管理タグ番号は、割り当てることも削除することもできます。
 1. 管理タグ番号を割り当てるには、asset とスペースを入力して、その後新しいストリングを入力します。

管理タグ番号は最大で10文字です。すべての文字の組み合わせが有効です。たとえば、a:> プロンプトで、次のコマンドを入力し、<Enter>を押します。

```
asset 12345abcde
```

1. 新しい番号を割り当てずに管理タグ番号を削除するには、asset /d と入力し、<Enter>を押します。
3. 管理タグ番号の変更を確認するよう指示されたら、yを入力し、<Enter>を押します。

管理タグ設定ユーティリティを表示するには、asset /? と入力し、<Enter>を押します。

[メモ、注意および警告](#)

用語集

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

次のリストでは、システムマニュアルで使用される技術用語、略語の意味を示します。

A

ampere (アンペア)

AC

alternating current (交流)

BIOS

basic input/output system (基本入出力システム)。システムのBIOSは、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムから成ります。BIOSは、以下の事項を制御します。

- 1 キーボードやビデオアダプタなど、マイクロプロセッサと周辺機器間のコミュニケーション
- 1 システムメッセージなどの付属機能

bps

bits per second (1秒あたりのビット数)

BTU

British thermal unit (英式熱量単位)

C

Celsius (摂氏)

CD

compact disc (コンパクトディスク)。CDドライブでは光学テクノロジーを使って、CDからデータを読み取ります。CDは読み取り専用のストレージです。通常のCDドライブでは、新しいデータをCDに書き込むことはできません。

CERC

cost-effective RAID controller
(費用効率の高いRAIDコントローラ)

COM n

システムの第1シリアルポートから第4シリアルポートに対応するデバイス名は、COM1、COM2、COM3およびCOM4です。COM1およびCOM3のデフォルト割り込みはIRQ4、そしてCOM2およびCOM4のデフォルト割り込みはIRQ3です。したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときは、割り込みコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

cpi

characters per inch(1インチあたりの文字数)

CPU

central processing unit(中央演算処理装置)。マイクロプロセッサを参照してください。

dB

decibel(デシベル)

dBA

adjusted decibel(補正デシベル)

DC

direct current(直流)

DDR

double data rate(2倍データ率)

DIMM

double in-line memory module(デュアルインラインメモリモジュール)。DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

Deutsche Industrie Norm(ドイツ工業規格)

DIP

dual in-line package(デュアルインラインパッケージ)。通常、システム基板や拡張カードなどの回路基板には、その回路基板を設定するためのDIPスイッチがあります。DIPスイッチはON位置とOFF位置を持つ切り替えスイッチです。

DMA

direct memory access(ダイレクトメモリアクセス)。DMAチャネルを使うと、RAMとデバイス間でのデータ転送がマイクロプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DMI

Desktop Management Interface(デスクトップ管理インタフェース)。DMIは、システムのソフトウェアとハードウェアの管理を可能にします。DMIは、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、および管理タグなどのシステムコンポーネントに関する情報を修正します。

DPMS

Display Power Management Signaling(ディスプレイ消費電力管理信号)。モニタの省電力機能を起動するためにビデオコントローラから送信されるハードウェア信号を定義するための標準です。DPMS準拠のモニタは、システムのビデオコントローラから特定の信号を受信して省電力モードになるように設計されています。

DRAM

dynamic random-access memory (ダイナミックランダムアクセスメモリ)。通常、システムのRAMはDRAMチップのみで構成されます。DRAMチップは電荷を長くは保持できないため、システムの各DRAMマイクロプロセッサは定期的によりフレッシュされます。

DTE

data terminal equipment (データ端末装置)。システムなど、ケーブルや通信回線によってデジタル形式でデータを送信できる装置のことです。DTEは、モデムなどのDCE (データ通信回線) を介して、ケーブルや通信回線に接続します。

DVD

digital versatile disc (デジタル多目的ディスク)。CDより容量とバンド幅の大きな読み取り専用オプティカルストレージデバイスです。DVDは、マルチメディアおよびデータストレージに使用できます。

ECC

error checking and correction (エラーチェックおよび訂正)

ECP

Extended Capabilities Port (拡張機能ポート)

EEPROM

electrically erasable programmable read-only memory
(電氣的に消去/書き込み可能なROM)

EIDE

enhanced integrated drive electronics。EIDEデバイスは、標準のIDEデバイスに、次の1つまたは複数の機能が加わります。

- 1 最大16 MBpsのデータ転送速度
- 1 CDドライブやテープドライブなどのハードドライブ以外のドライブもサポート
- 1 528 MB以上の容量のハードドライブをサポート
- 1 それぞれ2つまでのデバイスが装着されたコントローラを、2つまでサポート

EMC

Electromagnetic Compatibility (電磁環境両立)

EMI

electromagnetic interference (電磁波障害)

EMM

expanded memory manager (EMSメモリマネージャ)。拡張メモリを使用してEMSメモリをエミュレートするユーティリティ。

EMS

Expanded Memory Specification (EMSメモリ仕様)

EPROM

erasable programmable read-only memory(消去可能なプログラマブル読み取り専用メモリ)

ESD

electrostatic discharge(静電気放出)

EMSメモリ

1 MB以上のRAMにアクセスする技法。システムのEMSメモリを有効にするには、EMMを使用しなければなりません。EMSメモリを使用できる(またはEMSメモリが必要な)アプリケーションプログラムを実行する場合のみ、システムをEMSIに設定する必要があります。

F

Fahrenheit(華氏)

FAT

file allocation table(ファイル割り当てテーブル)。FATはファイルストレージを管理するためにMS-DOSで使用されるファイルシステム構造です。他のいくつかのオペレーティングシステムでは、オプションとしてFATファイルシステム構造を使用することができます。

FCC

Federal Communications Commission
(連邦通信委員会)

ft

feet(フィート)

FTP

file transfer protocol(ファイル転送プロトコル)

g

gram(グラム)

G

gravities(重力)

GB

gigabyte(ギガバイト)。1GBは1,024 MB(1,073,741,824バイト)です。

GUI

graphical user interface(グラフィックユーザーインターフェース)

h

hexadecimal(16進法)。システムのRAMのアドレスやI/Oメモリのデバイス用アドレスを指定するために使われる16を基数とする記数法です。たとえば、0から16までの10進数は16進法では、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10のように表されます。テキスト内では、数字の後にhを付けます。

Hz

hertz(ヘルツ)

ICES

Interface-Causing Equipment Standard(カナダ)

ID

identification(識別)

IDЕ

integrated drive electronics

I/O

input/output(入出力)。キーボードは入力デバイスであり、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O動作はコンピュータ計算とは区別することができます。たとえば、プログラムがドキュメントをプリンタに送るときが出力動作、用語のリストをソートするときがコンピュータ計算です。

IPX

internetwork packet exchange(ネットワーク間パケット交換)

IRQ

interrupt request(割り込み要求)。周辺機器からデータを送受信するときの信号は、IRQを介してマイクロプロセッサに送られます。各デバイスコネクタは、IRQ番号を割り当てられなければなりません。たとえば、お使いのシステムの第1シリアルポート(COM1)には、デフォルトでIRQ4が割り当てられています。2つのデバイスは同じIRQ番号を共有できますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ITE

information technology equipment
(情報技術装置)

K

kilo(キロ)、1,000を表します。

KB

kilobyte(キロバイト)。1キロバイトは、1,024バイトです。

KB/sec

kilobyte per second(1秒あたりのキロバイト数)

Kbit(s)

kilobit (キロビット)。1キロビットは
1,024ビットです。

Kbit(s)/sec

kilobit per second (1秒あたりのキロビット数)

kg

kilogram (キログラム)。1キログラムは、
1,000グラムです。

KHz

kilohertz (キロヘルツ)。1キロヘルツは、
1,000ヘルツです。

LAN

local area network (ローカルエリアネットワーク)。通常、LANシステムは、すべての装置がLAN専用のワイヤによって接続されている近隣の建物内だけで使われます。

lb

pound (ポンド)

LED

light-emitting diode (発光ダイオード)。LEDは、電流が通過すると点灯する電子装置です。

LPTn

システム上にある1～3番目のパラレルポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、LPT3です。

m

meter (メートル)

mA

milliampere (ミリアンペア)

mAh

milliampere-hour (ミリアンペア時)

Mb

megabit (メガビット)

MB

megabyte(メガバイト)。1メガバイトは、1,024キロバイトまたは1,048,576バイトです。ただし、ハードドライブの容量を表す場合は、通常、概数にして100万バイトとします。

MB/sec

megabytes per second(1秒あたりのメガバイト数)

Mbps

megabits per second(1秒あたりのメガビット数)

MBR

master boot record(マスタブートレコード)

MHz

megahertz(メガヘルツ)

MIDI

musical instrument digital interface(音響機器デジタルインタフェース)

MIF

management information format(管理情報フォーマット)。MIFファイルには、コンポーネント計装への、情報、ステータス、およびリンクが含まれています。MIFファイルは、DMIサービスレイヤーによって、MIFデータベースにインストールされます。MIFの内容は、DTMF作業委員会によって定義され、MIF定義文書の形式で出版されています。このマニュアルは、DMI管理可能コンポーネントに関するグループや属性について定義しています。

mm

millimeter(ミリメートル)

MPEG

Motion Picture Experts Group。MPEGはデジタルビデオファイルフォーマットです。

ms

millisecond(ミリ秒)

MTBF

mean time between failures(平均故障間隔)

mV

millivolt(ミリボルト)

NDIS

Network Driver Interface Specification(ネットワークドライバインタフェース仕様)

NIC

network interface controller (ネットワークインタフェースコントローラ)

NLM

NetWare® Loadable Module (NetWareロード可能モジュール)

NMI

nonmaskable interrupt (マスク不能型割り込み)。パリティエラーなどのハードウェアエラーが起きた場合、デバイスはマイクロプロセッサに知らせるためにNMIを送ります。

ns

nanosecond (ナノ秒)。10億分の1秒。

NTFS

NT File System (NTファイルシステム)。Microsoft Windows NT®オペレーティングシステムのオプションです。

NVRAM

nonvolatile random-access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ)。システムの電源を切っても、内容は失われません。NVRAMは、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

OTP

one-time programmable (一回限りプログラム可能)

PCI

Peripheral Component Interconnect (周辺機器相互接続)。標準のローカルバス規格です。

PGA

pin grid array (ピングリッドアレイ)。マイクロプロセッサチップの取り外し可能なマイクロプロセッサソケットです。

POST

power-on self-test (電源投入時の自己診断)。システムの電源が入ると、オペレーティングシステムをロードする前に、POSTがRAM、ディスクドライブ、キーボードなどの様々なシステムコンポーネントをテストします。

ppm

pages per minute (1分あたりのページ数)

PS/2

Personal System/2

PXE

preboot execution environment (ブリブート実行環境)

RAID

redundant array of independent disks

RAM

random-access memory (ランダムアクセスメモリ)。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域。RAM内部の各領域は、メモリアドレスと呼ばれる数値によって識別されます。RAMに保存されている情報は、システムの電源が切れるとすべて失われます。

readmeファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属するテキストファイル。ソフトウェアまたはハードウェアのマニュアルの補助およびアップグレード情報が記載されています。通常、readmeファイルには、マニュアルに記載されていないインストール情報、新製品についての説明、あるいは訂正文が含まれます。また、ソフトウェアまたはハードウェアを使用する際に必要となる、既知の問題やその他の事項が記載されています。

RFI

radio frequency interference (ラジオ周波数障害)

RGB

red/green/blue (赤/緑/青)

ROM

read-only memory (読み取り専用メモリ)。システムの動作に必要なプログラムのいくつかはROMコードの中に保存されています。RAMとは異なり、ROMチップはシステムの電源が切れた後もその内容を保持します。ROM内にあるコードには、システムの起動ルーチンを開始するプログラムやPOSTなどがあります。

rpm

revolutions per minute (1分あたりの回転数)

RTC

real-time clock (実時刻時計)。システム内部にあるバッテリーで動く時計回路で、システムの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

SCSI

small computer system interface (小型コンピュータシステムインタフェース)。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つI/Oバスインタフェース。1つのSCSIインタフェースに最大7つのデバイス(いくつかの新しいSCSIタイプは15)を接続できます。

SDMS

SCSI device management system (SCSIデバイス管理システム)

SDRAM

synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)

sec

second(秒)

SEC

single-edge contact(単一エッジコンタクト)

SIMD

Single Instruction Multiple Data
(単一命令多重データ)

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology。
システムBIOSにエラーや障害があった場合に、ハードドライブが報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART準拠のハードドライブおよびシステムBIOSのサポートが必要です。

SNMP

Simple Network Management Protocol(シンプルネットワーク管理プロトコル)。SNMPは、業界標準のインタフェースで、ネットワーク管理者はリモートでワークステーションを監視したり管理することができます。

SRAM

static random-access memory(スタティックRAM)。SRAMチップは、リフレッシュが必要ないため、DRAMチップよりも数倍高速です。

SVGA

super video graphics array(スーパービデオグラフィックスアレイ)。VGAとSVGAは、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニタやビデオドライバの機能と、システムにインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

tpi

tracks per inch(1インチあたりのトラック数)

UL

Underwriters Laboratories(保険業者研究所)

UMB

upper memory blocks(アッパーメモリブロック)

UPS

uninterruptible power supply(無停電電源装置)。電氣的な障害が起きた場合に、システムの電源が切れないようにするためのバッテリー電源装置。

USB

Universal Serial Bus。USBコネクタによって、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカーなど、USBに準拠した複数のデバイスに対して、単独結合ポイントを使える

ようになります。USBデバイスは、システムが起動中でも接続したり、取り外したりできます。

UTP

unshielded twisted pair
(シールドなしツイストペア)

V

volt (ボルト)

VAC

volt alternating current (ボルト交流)

VCCI

Voluntary Control Council for Interference
(電波障害自主規制協議会)

VCR

video cassette recorder
(ビデオカセットレコーダ)

VDC

volt direct current (ボルト直流)

VGA

video graphics array (ビデオグラフィックスアレイ)。VGAとSVGAは、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタ用にインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

VGA対応コネクタ

VGAビデオアダプタが組み込まれた一部のシステム上では、VGA対応コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをシステムに追加することができます。VGA対応コネクタは、VGAバススルーコネクタとも呼ばれます。

VLSI

very-large-scale integration (超大規模集積回路)

Vpp

peak-point voltage (ピーク時電圧)

VRAM

video random-access memory (ビデオランダムアクセスメモリ)。ビデオアダプタの中には、VRAMチップ(またはVRAMとDRAMの組み合わせ)を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAMはデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時におこなうことができます。

W

watt(ワット)

WH

watt-hour(ワット時)

XMM

extended memory manager(拡張メモリマネージャ)。アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムが、XMSに沿って拡張メモリを使えるようにするユーティリティ。

XMS

eXtended Memory Specification
(拡張メモリ仕様)

ZIF

zero insertion force(ゼロ挿入圧力)。一部のシステムでは、ZIFソケットやZIFコネクタを使用してデバイス(マイクロプロセッサチップなど)の取り付けや取り外しをおこなうときに、デバイスに圧力が加からないようにします。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード。アダプタカードは、拡張バスと周辺機器間のインタフェースを提供することによって、システムに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSIアダプタなどがあります。

アプリケーションプログラム

ユーザーが特定のタスクまたは一連のタスクを実行し易くするためのソフトウェア(表計算プログラムやワードプロセッサなど)。アプリケーションプログラムは、オペレーティングシステムから実行されます。

インタリーピング

データシーケンスの一部を並び替え、同じデータの別のシーケンスの一部と交換することによってデータをより効率的に保存する技術。データが検索されると、システムはシーケンスを再び元に戻します。

インタレース

画面上の代替水平線だけを更新してビデオ解像度を増加させる技法。インタレースを使用すると画面のちらつきが目立つ場合があるため、ユーザーにはノンインタレースのビデオアダプタ解像度が好まれます。

オンラインアクセスサービス

Internet、電子メール、電子掲示板、チャットルーム、ファイルライブラリへのアクセスを提供するサービス。

カードエッジコネクタ

拡張カードの底部にある金属接触部分で、拡張カードコネクタに差し込みます。

外部キャッシュメモリ

SRAMチップを使用するRAMキャッシュ。SRAMチップはDRAMチップよりも数倍高速であるため、マイクロプロセッサによるデータや命令の取り出しは、RAMを使用

する場合よりも外部キャッシュメモリを使用した方が高速になります。

書き込み保護

読み取り専用ファイルは、書き込み保護とも言われます。3.5インチのディスクットを書き込み保護にするには、ディスクットの書き込み保護タブをスライドさせて開いた位置にするか、セットアップユーティリティで書き込み保護機能を設定します。

拡張カードコネクタ

拡張カードを差し込むシステム基板またはライザボード上のコネクタ。

拡張バス

システムには、拡張バスが装着されています。この拡張バスによって、ネットワークカードや内蔵モデムなどの周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサがコミュニケーションをおこなうことができます。

拡張メモリ

1 MB以上のRAM。拡張メモリを使用できるほとんどのソフトウェア (Microsoft® Windows®オペレーティングシステムなど) では、拡張メモリをXMMで制御する必要があります。

画素 (ピクセル)

ビデオ画面上の単一の点。ピクセルは画像を表示するために行列形式に並べられます。たとえば、640 × 480というビデオ解像度は、横方向に640個のピクセル、縦方向に480個のピクセルが並んだ行列として表されます。

仮想メモリ

ハードドライブを使用して、アドレッシング可能なRAMを増加させる技法。たとえば、16 MBのRAMを搭載したシステムのハードドライブ上で16 MBの仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32 MBの物理RAMが存在する場合と同様の方法でシステムが管理されます。

管理タグ番号

セキュリティまたはトラッキング目的のために、通常、システム管理者がシステムに割り当てる個々の番号。

起動ルーチン

システムを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードがおこなわれます。オペレーティングシステムが応答しない場合、<Ctrl><Alt>を押してシステムを再起動できます (ウオームブートとも呼ばれます)。それでもオペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、システムの電源を一度切ってから入れなおすことによって、システムを再起動 (コールドブート) しなければなりません。

キーの組み合わせ

コマンドを送るために同時に押す複数のキー。たとえば、<Ctrl><Alt>のキーの組み合わせを押すと、システムを再起動できます。

キャッシュ

データを高速検索するための、データまたは命令のコピーを保持する高速記憶領域。たとえば、システムのBIOSでは高速RAMにROMコードがキャッシュ (保持) されます。また、ディスクキャッシュユーティリティでは、頻繁にアクセスされる情報がシステムのディスクドライブからRAMに保持されます。キャッシュ内にあるデータについて、プログラムからディスクドライブに対して取り出し要求が発行されると、ディスクキャッシュユーティリティはRAMからデータを取り出すので、ディスクドライブから取り出す場合よりも検索時間が短縮されます。

グラフィックコプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

グラフィックモード

「x個の横ピクセル×y個の縦ピクセル×z種類のカラー」で定義されるビデオモード。

グループ

(DMIに関連した用語として)グループは、管理可能コンポーネントについての、一般情報または属性を定義するデータ構造です。

コプロセッサ

システムのマイクロプロセッサを特定の処理タスクから解放するチップ。たとえば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を制御します。グラフィックコプロセッサはビデオレンダリングを処理します。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリ間、またはマイクロプロセッサと周辺機器(ディスクドライブやキーボードなど)間のデータ転送を制御するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードドライブインジケータ、電源インジケータなどのインジケータやボタンを含むシステムの一部。

コンベンショナルメモリ

RAMの最初の640 KB。コンベンショナルメモリは、すべてのシステムに存在します。MS-DOS®プログラムは特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内のみ実行されます。

コンポーネント

DMIと関連した、管理可能なコンポーネントは、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、および周辺機器であり、DMIと互換性があります。各コンポーネントは、グループおよび属性を構成し、そのコンポーネントに関連したものとして定義されます。

サービスタグナンバー

テクニカルサポートを受けるためにお電話をいただいた際、システムを識別するためにシステムに貼付しているバーコードラベル。

システム基板

主要回路基板であるシステム基板には、一般に以下のような、システムを構成するために必要な部品のほとんどが取り付けられています。

- 1 マイクロプロセッサ
- 1 RAM
- 1 キーボードなどの標準周辺機器のコントローラ
- 1 各種のROMチップ

システム基板は、マザーボード、ロジックボードと同義語です。

システム診断プログラム

システム用の総合テストセット。診断プログラムの使用方法の詳細については、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

システム設定情報

メモリに保存されたデータで、取り付けられているハードウェアの種類およびシステムの動作設定が記載されています。

システムディスク

起動ディスクと同義語です。

システムメモリ

RAMと同義語です。

シャドウイング

コンピュータのシステムとビデオのBIOSコードは、通常ROMチップに格納されています。シャドウイングとは、起動ルーチン中に(640 KB以降の)上位メモリ領域の高速RAMチップにBIOSコードをコピーして、性能を向上させる技法を指します。

ジャンパ

ジャンパは回路基板上の小さなブロックで、2本以上のピンが出ています。ワイヤを格納しているプラスチック製プラグが、ピンに被せられています。ワイヤは、ピン同士を接続して回路を形成します。ジャンパを使用すれば、プリント回路基板の回路構成を簡単に変更できます。

周辺機器

システムに接続される内蔵装置または外付け装置(プリンタ、ディスクドライブ、キーボードなど)。

上位メモリ領域

640 KBから1 MBの間にある384 KBのRAM。システムにIntel386以上のマイクロプロセッサが搭載されている場合、メモリマネージャと呼ばれるユーティリティが上位メモリ領域でUMBを作成します。そこにはデバイスドライバおよびメモリ常驻プログラムをロードすることができます。

シリアルポート

システムにモデムを接続するときに、最も多く使われるI/Oポート。システムのシリアルポートには、通常、9ピンコネクタが使用されます。

シntaxス(構文法)

システムによって正しく認識されるように、コマンドや命令を入力する方法を指示する規則。

スイッチ

システム基板上で、スイッチはシステムのさまざまな回路や機能を制御します。これらのスイッチはDIPスイッチとして知られており、通常、2つまたはそれ以上の組でプラスチックケース内にパッケージされています。2つの一般的なDIPスイッチがシステム基板に使用されています。スライドスイッチとロッカスイッチです。スイッチの名前は、スイッチの設定(オンとオフ)がどのように変更されるかに由来します。

数値演算コプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

セットアップユーティリティ

BIOSベースのプログラム。システムのハードウェアを構成したり、パスワードによる保護や電源管理などの機能を設定することによって、システムの動作をカスタマイズすることができます。セットアップユーティリティのオプションの中には、システムを再起動しない(またはシステムによっては自動的に再起動)ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。セットアップユーティリティはNVRAMに保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

ターミネータ

いくつかのデバイス(SCSIケーブルの両端の最後のデバイスなど)は、ケーブル内の反射や不要信号を防止するため終端する必要があります。このようなデバイスを連結する場合は、デバイスの設定ソフトウェアのジャンパやスイッチの設定を変更することによって、これらのデバイスの終端を有効または無効にする必要があります。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムの特定の時間。

ディレクトリ

ディレクトリは、関連するファイルがディスク上で「逆ツリー」の階層構造になるようにします。各ディスクには「ルート」ディレクトリがあります。たとえば、通常、C:>プロンプトはハードドライブCのルートディレクトリにあることを示します。ルートディレクトリから分岐する追加のディレクトリは、サブディレクトリと呼ばれます。サブディレクトリの下には、さらに別のディレクトリが枝状につながっている場合もあります。

テキストエディタ

ASCII文字だけを含むテキストファイルを編集するためのアプリケーションプログラム。たとえば、Windowsのメモ帳などはテキストエディタです。ほとんどのワードプロセッサは、バイナリ文字を含む独自のファイル形式を使いますが、テキストファイルを読み書きできるものもあります。

テキストモード

x列×y行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムやその他のプログラムがプリンタなどの周辺機器と正しくインターフェースできるようにするプログラム。ネットワークドライバなどのいくつかのデバイスドライバは、メモリ常駐プログラムとして必ずロードされます。ビデオドライバなどのその他のドライバは、プログラムを起動するときにロードする必要があります。

ドライブタイプ番号

システムでは、複数の種類のハードドライブが認識されます。個々のドライブにはドライブタイプ番号が割り当てられ、NVRAMに保存されます。セットアップユーティリティで指定されたハードドライブは、システムに取り付けられた実際のドライブと一致しなければなりません。セットアップユーティリティでは、NVRAMに保存されたドライブタイプ一覧に記載されていないドライブの物理パラメータ(論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号、バックごとの論理セクタ)を指定することもできます。

内蔵マイクロプロセッサキャッシュ

マイクロプロセッサに内蔵された命令キャッシュとデータキャッシュ。Intel Pentiumマイクロプロセッサには16 KBの内蔵キャッシュがあり、8 KBの読み取り専用命令キャッシュおよび8 KBの読み書き可能データキャッシュとしてセットアップされています。

ノンインターレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

ハードドライブを複数の物理区画(パーティションとも呼ばれます)に分割することを可能にするオペレーティングシステムの機能。各パーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

バイト

システムで使われる基本的なデータ単位。1バイトは8ビットです。

バス

システムのコンポーネント間の情報経路。システムには、拡張バスが設置されています。この拡張バスによって、システムに接続されているすべての周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサが通信することができます。また、マイクロプロセッサとRAM間の通信をおこなうために、アドレスバスとデータバスも装備されています。

バックアップ

プログラムまたはデータファイルのコピー。不測の事態に備えて、定期的にハードドライブのバックアップを取ることをお勧めします。システムの設定を変更する前に、重要な起動ファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

バックアップバッテリー

バックアップバッテリーはシステムの電源が切られている間、システム設定、日付および時刻の情報をメモリの特別なセクション内に保持します。

パラメータ

プログラムに指定する値またはオプション。パラメータは、スイッチまたは引数とも呼ばれます。

パラレルポート

システムにプリンタを接続するときに、最も多く使われるI/Oポート。通常、システムのパラレルポートには25穴のコネクタを使います。

ヒートシンク

放熱のために役立つベグやリブが付いた金属板。ほとんどのマイクロプロセッサにはヒートシンクが組み込まれています。

ビーブコード

システムのスピーカーから流れるビーブ形式の診断メッセージ。たとえば、1つのビーブ音、次に2つのビーブ音、そして3つの連続したビーブ音が聞こえた場合、ビーブコードは、1-1-3です。

ビット

システムが認識する情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニタと連携してシステムのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタが持つ機能の種類は、特定のモニタが持つ機能とは異なる場合があります。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを、様々なビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

いくつかのシステムでは、システム基板にビデオアダプタが組み込まれています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できません。

ビデオアダプタには、システム基板のRAMから独立したメモリがしばしば組み込まれています。ビデオメモリの量と、アダプタのビデオドライバによって、同時に表示できる色数が決まります。高速のグラフィックレンダリングを実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオ解像度

たとえば、800 × 600というビデオ解像度は、横方向に800個のピクセル、縦方向に600個のピクセルが並んだ行列として表されます。特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。

ビデオドライバ

グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムにおいて、希望の色数と選択された解像度で表示するためのプログラム。ソフトウェアパッケージには、汎用ビデオドライバが含まれていることがあります。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどのVGAビデオアダプタとSVGAビデオアダプタには、システムのRAMとは別に、メモリチップが内蔵されています。取り付けられているビデオメモリの容量は、主にプログラムが表示できる色数によって異なります(これは対応するビデオドライバとモニタの機能にもよります)。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタは、複数のテキストモードおよびグラフィックモードをサポートしています。文字をベースにしたソフトウェアは、x列×y行の文字数で表されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「x個の横ピクセル×y個の縦ピクセル×z種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

フォーマット

ファイルを保存するためにハードドライブやディスクを準備すること。無条件フォーマットをおこなうと、ディスクに格納された全データが消去されます。

プラグアンドプレイ

ハードウェアデバイスをパーソナルシステムに容易に追加できるようにする、業界標準仕様。プラグアンドプレイは、自動インストールおよび構成、既存のハードウェアとの整合性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートを提供します。

フラッシュメモリ

システムに取り付けた状態で、ディスク内のユーティリティから再プログラムが可能なEEPROMチップの一種。ほとんどのEEPROMチップは特殊なプログラム用デバイスを使わなければ、書き込みできません。

プロテクトモード

80286以上のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16 MB(80286マイクロプロセッサの場合)～4 GB(Intel386™以上のマイクロプロセッサの場合)のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ(ハードドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法)

多くの32ビットのオペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。MS-DOSはプロテクトモードで実行できません。ただし、MS-DOSから起動できる一部のプログラム(Windowsオペレーティングシステムなど)は、システムをプロテクトモードに移行することができます。

ホストアダプタ

ホストアダプタによって、システムのバスと周辺機器用のコントローラ間の通信ができます。(ハードドライブコントローラサブシステムには、内蔵ホストアダプタ回路が組み込まれています。) SCSI拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタを取り付ける必要があります。

マイクロプロセッサ

演算およびロジック機能の解釈と実行を制御する、システム内部のプライマリ計算チップ。あるマイクロプロセッサ用に書かれたソフトウェアを別のマイクロプロセッサで実行するには、ほとんどの場合ソフトウェアを新しく書きなおさなければいけません。CPUはマイクロプロセッサの同義語です。

マウス

画面上のカーソルの動きをコントロールするポインティングデバイス。マウスが使用できるソフトウェアでは、画面上に表示されているオブジェクトを指しながらマウスボタンを押すことによって、コマンドを実行できます。

マルチスキャンモニタ

複数のビデオ規格をサポートするモニタ。マルチスキャンモニタは、各種のビデオアダプタからの信号周波数レンジに合わせて調整できます。

ミラリング

データ冗長性的一种。複数の物理ドライブを使用してデータを保存し、さらに1台以上のドライブを使用して同じデータのコピーを保存します。ミラリングは、小容量のシステムやパフォーマンスが非常に重視されるシステムでよく利用される冗長化技術です。

メモリ

システムは、RAM、ROM、およびビデオメモリなどの異なる型のメモリを持っています。メモリという用語はRAMと同じ意味で使われることがあります。たとえば、「16 MBのメモリを持つシステム」という場合、16 MBのRAMを持つシステムを指します。

メモリアドレス

システムのRAM内で16進法で表される特定の位置。

メモリマネージャ

コンベンショナルメモリ以外のメモリ(拡張メモリやEMSメモリなど)の実装を管理するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

モデム

電話線を通して、他のシステムとの通信を可能にするデバイス。

ユーティリティ

メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステムリソースを管理するためのプログラム。

読み取り専用ファイル

読み取り専用ファイルとは、編集や消去が禁止されているファイルのことを言います。ファイルは、以下の場合に読み取り専用になります。

- 1 読み取り専用属性が有効になっている場合。
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク、または書き込み禁止ドライブ内のディスク上にファイルが存在する場合。
- 1 ファイルがディレクトリの中のネットワーク上にあり、システム管理者が読み取り権だけを許可している場合。

リアルモード

80286以上のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086マイクロプロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニタがモニタ画面上でビデオ画像を再描写する速度。精密に言うと、リフレッシュレートは、Hzで計測される周波数で、スクリーンの行がリチャージされる割合です(垂直周波数とも呼ばれます)。リフレッシュレートが高いと、ビデオフリッカーが見えにくくなります。また、高いリフレッシュレートはノンインタレースです。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムは、特定の周辺機器(ビデオアダプタ回路など)が従来の拡張バスを持つシステムよりも高速に動作するように設計されています。ローカルバスには、システムのマイクロプロセッサと同じ幅のデータバスおよび同じ速度で周辺機器を動作させるものもあります。




[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

Dell™ PowerEdge™ 1600SCシステム ユーザーズガイド

● [メモ、注意、警告](#)

メモ、注意、警告

-  **メモ:** 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。
-  **注意:** ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。
-  **警告:** 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

このマニュアルの内容は予告なく変更されることがあります。
© 2003 すべての著作権はDell Inc.にあります。

Dell Inc. からの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標: Dell, DELLのロゴ、PowerEdge、およびDell OpenManageはDell Inc.の商標です。IntelはIntel Corporationの登録商標です。XeonおよびIntel386はIntel Corporationの商標です。NovellおよびNetWareはNovell, Inc.の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、およびMS-DOSはMicrosoft Corporationの登録商標です。

このマニュアルでは、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切Dell Computer Corporationに所属するものではありません。

Model SMM01

2003年 9月P/N C3755Rev.A00

[メモ、注意および警告](#)